

片倉領 奥州街道と宿 (宮城県南口から越河宿—斎川宿—白石宿—宮宿へ)

刈田嶽神社 (白鳥大明神)

神山刈田嶽を祀る神社として延喜式神名帳に記されている。再麻山頂にあったが山麓の西宮に遷座し、さらに現在地に遷座している。江戸時代には白石城主片倉家の祈願神社として信仰され、また仙南一帯の白鳥信仰の中心地でもある。



陣場山

1600年に伊達政宗が豊臣方の所領だった白石城を攻撃するために置いた本陣跡。1868年戊辰戦争時官軍の世良修蔵(仙台藩士に暗殺される)の墓がある。併し松窓乙二の歌碑がある。

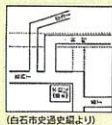


新しい有志丁の現在の道路 (黒線)

奥州街道は仙台方面からは大きく西に曲がって新町から白石町内に入っていたが、明治18年交通事情が変化すると、有志の協力により白石大橋から一直線に亘理町を結ぶ道路ができ、便利になった。

奥州街道宮口の入口 (新町)

白石城下に入るためには、コの字(銀形)に曲がりながら通過する必要があった。またここに不動院が配置され、敵の侵入を監視し、防衛の役割を果たしていた。



白石城

仙台藩の重臣片倉小十郎の居城である。幕府の「一國一城令」にもかかわらず仙台城の他に認められた。「一円知行」を認められ、街道の管理にも関わった。



東京街道道標

石碑は旧奥州街道の田町口(曲がり角)にあり、「一級道路東京街道」と「此方二等道路米澤街道下戸澤駅工出テ」と彫られている。「東京街道」は斎川方面へ、「米沢街道」は森合村から鉢森山を越え、小原から下戸沢、セヶ宿街道から米沢への街道である。(現在は移設され白石中学校校門前にある)



鏡摺坂 (あぶみすりさか)

田村神社の南裏山にある。この坂道は鏡がすれる程道幅の狭い急な場所。人馬にとっては曲がりくねり険しい難所であった。



越河の道路元標

越河は「距仙臺元標十五里」と刻印。仙台の起点「芭蕉の辻」から60kmである。



越河御番所跡

見町

白堤防からの松並木

昭和30年頃、白石と宮の間はコンクリート舗装で白堤防と呼ばれ、松並木であった。遠く蔵王の雄姿が見られる。昭和20年頃に軍が松根油を採るために多数伐採された。



斎川の道路元標

「距仙臺元標十四里」と刻印。仙台の起点「芭蕉の辻」から56kmである。



田村神社

田村神社は、坂上田村麻呂將軍の蝦夷征伐を徳んで建てられたとされている。神社内にある甲冑堂は源九郎義経の家臣継信、忠信兄弟の妻籠、初音の女武者の木造がある。



下絨の石

道路の整備に伴い、県境の国道4号の東側にある。その昔、用明天皇と玉依姫との伝説に由来する。「歌枕」として都の人々にも慕われた。藩政時代には近くに越河御番所が置かれた。



宮宿

長さ:4丁21間(約474m) 軒数:78軒

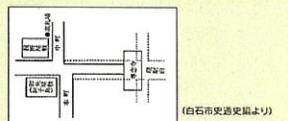
東は金ヶ瀬宿方面へ向かう。なお、北に笹谷街道(羽前街道)が分岐して永野宿方面へと向かう。



白石宿

※白石宿は六町が交代で検断の役割を担ったが詳しくは不明である。

- ① 新町
長さ:2丁13間(約241m) 軒数:40軒
うーめん発祥の地大畑屋の跡地がある。
- ② 短ヶ町
長さ:1丁46間(約192m) 軒数:48軒
- ③ 亘理町
長さ:1丁50間3尺(約200m) 軒数:29軒
白石第一小学校への道は「御蔵道」で、仙台藩の代官所などがあった。また参勤交代の大名の本陣として利用された。街道の曲がり角には「千手院(松窓乙二の生家でもある)」がある。
- ④ 長町
長さ:2丁13間3尺(約242m) 軒数:55軒
町裏に神明社の御飯宮があった。明治の大火の後で現在の白石城の所に移った。
- ⑤ 中町
長さ:1丁44間3尺(約189m) 軒数:20軒
壽丸屋敷前は変形の十字路、中町検断屋敷前は御札場となっていた。沢端川には多数の水門があり、城下町の隅々まで用水が巡るようになっていた。
- ⑥ 本町
長さ:3丁7間3尺(約341m) 軒数:42軒
南端の当番寺で直角に西方向に曲がり、旧国道4号(奥州街道)田町交差点(東京街道道標があった)を南方向の斎川へ、西方向は小田原方面の米沢街道であった。



斎川宿

長さ:3丁22間(約367m) 軒数:30軒

江戸時代前から宿駅としての機能を持っていたと言われている。周辺には源頼義が伝説の神社仏閣がある。



越河宿

長さ:5丁23間(約587m) 軒数:33軒

検断屋敷は町中央にあり、江戸時代当初は、越河御番所も近くにあった。仙台藩の最南端の宿場である。

